

テーマ：“いのち”に寄り添う～ひと、たましい、医療～

申請者名：長谷部茂人

所属機関：NPO法人日本ホリスティック医学協会

職名：中部支部長

所属機関所在地：(本部) 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 5-28-10 ドルミ第2御苑 306

(中部) 〒491-0905 愛知県一宮市平和 1-2-13

提出年月日：平成 23 年 6 月 7 日

「報告書類」

■出演者レジュメ

(1) [別添]文責：まどか・アッセマ・庸代

「和学事始め、Holistic Life Science-Study as japonological epistemology(wa-gaku)」

(2) [別添]HOLISTIC News Letter Vol.79

記事形式：「長谷部茂人、船戸崇史、大下大圓、恒川洋、堀田由浩、まどか・A・庸代、江場康雄」

■当日プログラム：(フライヤーに記載)

■報告書：(2枚目に記載)

「報告書」

今回のプログラムは終末期ケア、ならびに死の看取りに及ぶまでの医療がどのように役割を果たせるのか、また、患者さんを中心とした人間関係を円滑にするには（満たされた臨終を迎えるには）というテーマを掲げた。

日本人の死生観とは何か、「わたしがわたしで本当に良かった」と思えるような死を向かえることは可能か？という、そもそも論を紐解くべく、和学（japonology）を専門学域とする南山大学、まどか・アッセマ・庸代准教授に「日本人の“いのち”感」を説明いただいた。「身に合った振る舞い」「和語が示すいのち感」「“場”のエネルギー」など高邁なステージを自然に受け入れられる日本人の素質にあらためて気付かされた。

午後の基調講演「いのちに寄り添うスピリチュアルケア」（飛騨千光寺住職、大下大圓氏）では、世界スケールでみる宗教（観）的「いのち、たましい」の捕らえ方、瞑想療法の効果・効用、ターミナルケアでの実際の事例など、僧侶のイメージとは異なる学際的な研究と成果の発表をいただいた。もちろん専門領域である仏教・仏典にみる生命・いのち感も説明いただいた。

研究講演、基調講演を終えてシンポジウムでは、各パネラーに説明をより理解しやすくするために、事前にパワーポイントデータとしてそれぞれ15分前後、提示・解説いただいた。特に船戸医師からは、悪性病で若くして亡くなった本人と家族の手記、年経過後からの家族の思いなど、実話にもとづいて解説いただけた。これには会場の聴者も感慨深く聴き入っておられた。恒川医師、堀田医師は統合医療、補完医療を用いた時の終末期の患者さんの事例報告を中心に解説いただいた。癌のステージ4の患者さんの5年生存率（総数50余名）が50パーセントに達する報告（通常は20パーセントを超えない）。薬を少なく処方できる方法など多岐に渡った。

パネルディスカッションでは、終末期医療の改善が促されない理由として、医療システムの不備を挙げられた。医療者が「行ってあげたいが保険適用でないので行えない」、「医療外の助言、例えば死についてや博愛情の吐露など」、課題は多いように思う。

大学者であるまどか氏は東京大学大学院での遺伝子研究の経験もあるため、国内外の研究者とも交流がある。医学研究における、国内の教育システムも万全とは言い難い状況だという。直ちに成果を求める研究に走りやすい研究者の意識改革と、それを支える国家的な応援も必要ではないか。

今回シンポジウムの参加者は173名だった。午前、午後と長時間に及ぶ学習会ではあったが、ほとんどの方が最後のプログラムまでおられた。挙手による医療従事者、コ・メディカルを尋ねたところ、およそ半数であった。参加者の皆様によるゴミの持ち帰り、清掃等に協力いただき、すがすがしく閉会できた。

*本論文は公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団の助成によるものです。

For you.

「いのち」きらめいて魂は躍動する。
「わたし」は「わたし」で本当に良かった。
そう思えるよう誰もが願っている。
医療やコミュニティーは、
どこまで「ひと」をサポートできるか。
関りの医療を目指して...

シンポジウム「ひと、たましい、医療」

「いのち」に寄り添う

プログラム

① 研究講演 11:00~12:00



「科学から和学(医学医療の)パラダイム論」

南山大学心理人間学科准教授、和学研究
まどかアッセマ庸代

プログラム

② 基調講演 13:00~14:30



「いのちに寄り添うスピリチュアルケア」

飛騨千光寺住職、京都大学大学院医学研究科講師、
日本スピリチュアルケア学会理事
大下 大圓

プログラム

③ シンポジウム 14:45~16:30 テーマ「いのちの営み」(上記の二講演者も参加します。)



恒川クリニック院長
恒川 洋



船戸クリニック院長
船戸 崇史



希望クリニック院長
堀田 由浩



憐エバ代表取締役会長
江場 康雄

* 生活習慣病予防指導士の方は本シンポジウム
に出席すると「2単位」取得できます。

2011/
6月5(日)
10:40開場 11:00開演

○会場
ウィルあいち 4階
ウィルホール
名古屋市東区上笠杉町1 Tel. 052-962-2511

前売 協会会員/2,000円 一般/2,500円

当日 協会会員・一般/3,000円

主催 NPO法人日本ホリスティック医学協会 中部支部 共催 東海ホリスティック医学振興会
TEL 0586-46-1273 FAX 0586-46-0367 Eメール kenko@world.interq.or.jp

後援 愛知県/名古屋市/愛知県教育委員会/名古屋市教育委員会/名古屋市社会福祉協議会/愛知県看護協会/名古屋青年会議所/中日新聞社

参加申込み方法、会場地図などの詳細は裏面をご覧ください。

日本ホリスティック医学協会は全人的医療を啓蒙・普及すると共に、ホリスティックライフな価値観を大切にしています。

本催事は運営費の一部を公益財団法人在宅医療助成
勇美記念財団研究助成を受けて開催しています。

【研究講演】11:00~12:00 「科学から和学(医学医療の)パラダイム論」

【基調講演】13:00~14:30 「いのちに寄り添うスピリチュアルケア」

[message]

和語いのちによる、日本人の身やいきに合ったライフサイエンスの風土化、和学問形成。

南山大学心理人間学科准教授、和学研究
まどかアッセマ桐代
<http://www.nanzan-u.ac.jp/>

【profile】 医科学と宗教文化の対話をテーマに、ライフサイエンス、精神史、日本人の死生論、スピリチュアルケアまで、人間の包括的発想法をめざしている。まどかソサエティ円茶会主宰。カトリック大学(パラダイム論、人間の尊厳科目いのちとことば、人間関係フィールドワーク)や国立大学(宗教と人類文化)や茶事により、科学と宗教文化と生活文化による秩序づけ、自文化風土に見合う医学医療者の意識化教育、学問と価値システム探究。

[message]

ケアの力とは自分自身と対象者に相互に関係する営みであり、それを仏教では自利利他といいます。

飛騨千光寺住職、NPO法人日本ホスピス在宅ケア研究会理事、日本スピリチュアルケア学会理事、NPO法人日本スピリチュアルケアワーカー協会副会長
大下 大圓 <http://daiei.senkouji.com/>

【profile】 現在飛騨を拠点として、いのちの研修やスピリチュアルケアとネットワーク活動の普及につとめている。学問仏教でない「実践仏教」「生きるための仏教」を提唱して、全国を研修、講演などで精力的にまわっている。京都大学で瞑想療法をケアプログラムとして研究開発中。著書には「ケアと対人援助に活かす瞑想療法(医学書院)」「手放してみる ゆだねてみる」(共著・日本評論社)「いのち輝いて〜未来を拓くスピリチュアリティ」(共著・雲母書房)ほか多数。

【シンポジウム】14:45~16:30 テーマ「いのちの営み」 *上記二講演者と以下シンポジストが参加。

[message]

「病い」という形で現れた「いのち」からのメッセージに耳を傾け、まるごとの「わたし」に一所懸命向きあえば、「病い」は治癒へと向かうでしょう。

東海ホリスティック医学振興会会長、藤田保健衛生大学医学部客員教授、恒川クリニック院長
恒川 洋 <http://www.tsunekawa-c.net/>

[message]

人は最期、死にたい場所、一緒に居たい人、命の言葉がある。人は死ぬその瞬間まで変わる事(進化)が出来る事を教えてもらいました。

養老郡医師会副会長、船戸クリニック院長
船戸 崇史 <http://www.f7.dion.ne.jp/~funacli/>

[message]

あなたの人生に残された日が今日だけしかなくても、あと100年あったとしても、変わらぬ姿勢で今日を生きよう。(ネイティブインディアン長者の言葉です)

アリゾナ大学統合医療学アソシエイトフェロー、統合医療希望クリニック院長
堀田 由浩 <http://www.kibo-clinic.com/>

[message]

創業の「創」はキズです。人生半ばキズを負うことがあっても、それは後に自分の財産になることも可能。「運と出逢い」に育てられる生き路に感謝!

医療設備、在宅医療 いのちの森 ㈱エバ代表取締役会長
江場 康雄 <http://www.ebanet.co.jp/>

【総務会】
長谷部 茂人
(日本ホリスティック医学協会常任理事、長谷部式健康会会長)

シンポジウム終了後に、同会場の同フロアにある和室で18時から親睦交流パーティーを行います。参加を希望の方は、交流会費3千円(飲食事代込み)をシンポジウム参加費とあわせてお振込みください(先着40名まで)。当日、和室入口にて参加者名簿を作成してお待ちいたしております。

FAX申込み受付 0586-46-0367

フリガナ
お名前

TEL

FAX

〒
ご住所

一般 前売り参加費 2,500円× 枚= _____円
協会会員 前売り参加費 2,000円× 枚= _____円

【チケット申込み方法】

上記にご記入の上この用紙をFAXして下さい。申込み後、参加費を下記の郵便振替口座にお振込み下さい。入金確認後、約1週間で入場バス券をお手元に届くよう郵送します。(電話0586-46-1273・Eメール kenko@world.interq.or.jpでも申込み可能です)

- 郵便振替/00800-2-31893 日本ホリスティック医学協会中部支部
(注意)通信欄に「6/5参加費」とお書きください。
- 他の金融機関から振込みされる場合
ゆうちょ銀行 089店(ゼロハチキュー店)
当座 0031893 ニホンホリスティックイガクキョウカイチュウブシブ
(注意)お名前の前に「6/5」と入力してください。

*中部支部ホームページ <http://www.interq.or.jp/world/kenko/holistic/yotei.htm>でもご案内しています。

日時 2011年6月5日(日)
会場 ウィルあいち ウィルホール
名古屋市東区上笠杉町1番地 Tel 052-962-2511

■地下鉄名城線「市役所」駅2番出口より東へ徒歩10分。

